

鎌倉市立稲村ヶ崎小学校（小学校）

研究テーマ：「よさを認め合い、生かし合い、ともに活動する児童の育成」

～きこう はなそう つなげよう～

1、実践の目的

御成中学校、御成小学校と本校の3校が、共通課題として「きく、考える、表現する」を大切にしたい授業づくりに取り組んでいる。義務教育9年間を通して、良さを認め合い、他者の意見をよく聞くことで、自らの考えを再構成し、他者に自らの考えを伝えていくことを目指している。繰り返し学び、深く考え、判断し、自ら進んで行動することのできる児童・生徒の育成に努めていく。



2、実践の内容

(1) 小中連携の強化

① 3校合同研修

御成中学校、御成小学校と本校の3校の教職員が集まり、早稲田大学教育・総合科学学術院教授の小林宏己先生の講演『「主体的に学習に取り組む態度」をどのようにとらえるか～「主体的な学び・・・」を保障する授業をどのように進めるか～』を聴き、小学校で学習した知識が中学校でより深化していくことが大切であることを共有した。

② 3校合同打ち合わせ・授業見学

3校の研究担当が集まり、それぞれの学校の研究主題や研究方法を確認し、学びづくりの方向性を一致させることができた。また、それぞれの研究授業の時だけでなく、御成中学校の教職員に、本校で児童がどう学んでいるかを見てもらった。「楽しそうに活動できる」「積極的に発言する」子どもたちを中学校でどう深化させていくか話し合うことができた。

(2) 授業研究

今年度も、茅野先生から指導・助言を頂いた。師範授業を参観し、また、授業の在り方や主体的な学びの定義、学年に担当されている指導事項などの講義を伺い、研究に対する共通理解が行えた。その理論に基づいた授業研究の実践を目指した。

正しい手立てであったか等を確認するため、指導案検討は2段階ステップを踏んだ。

- ① 低学年ブロック、高学年ブロックで検討
- ② 全体で検討

研究会を繰り返し行う中で、教師全体の考えを取り入れた指導案にしていった。授業で大切にしたい「つながり」がわかるようにし、深い学びとなるよう授業構成を考えていった。

2回の指導、助言では、「ワークシート活用」「発問」などを、授業で継続・精選して行い、適切な場面で取り入れることで、児童の主体的・対話的で深い学びにつながることを学んだ。これが、日々の授業改善につながっている。

《本時展開に「つながり」を示す→どうつなぐか》

8. 本時の指導 (6/9)

(1) 本時の目標
 ・複合立体の体積の求め方を説明したり、他の人と考えを交流したりする。

(2) 本時の「つながり」
 A前の授業で学習したことを「つなげる」
 G友だち同士の考えを「つなげる」

(3) 本時の展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援	●評価 ☆つなげる
1. 前時までの学習を振り返り本時のめあてと学習の流れを知る。(2分) ・前時から取り組んでいる課題を確認する。 ・本時のめあてを確認する。 伝え合って考えを深めよう。 ・グループ、全体の順で意見を交流し合うことを知る。	・教師の支援 ☆A	●評価 ☆つなげる
2. 体積の求め方を交流し合う。(20分) ①3人グループで集まる。 ②グループ内で考えを交流する。 ・グループ内で順番に説明し合う。 ③全体で考えを交流する。 (1)指名された順に発表する。 発案者以外の児童が説明する。 誰もできないれば本人が説明する。 (2)出ていない考えがあれば発表する。 グループ内へ他薦 → 挙手して発表 (3)自分と同じに近い考え方に名前マグネットを貼る	・有機的な交流ができるようにグループ分けしておく。 ・友だちの意見の良さ、自分と似ているところや違うところを考えながら意見を聞く助言する。 ●進んで意見を交流し合っている。(発言)	●評価 ☆つなげる
3. 求め方を分類・評価する。(15分) ①発表された求め方を、いつでも使える「万能型」と、使えないこともある「特別型」に分類する。 C1:①や②の方法は万能型。 C2:③、⑤、⑥の方法は、特別型。 C3:④の方法は数が多くなると大変そうだし、辺の長さが小教だとできないから特別型。 ②どの求め方が一番いいか考える。 C4:分けて求めて後で足す方法がいい。 C5:欠けているところを後で引く方法がいい。 C6:場合によって選べばいい。	☆G ・児童の思考が深まるよう指名する順番を直す。 ・人の考えを理解し共有するよさを実感させるため、発案者以外の児童に説明させる。 ・友だちの意見の価値を認めるよさや、自らの意見が認められることのよさを実感できるよう、まずグループ内で推薦させる。	●評価 ☆つなげる
4. いろいろな複合立体の体積を求める(5分) ・教科書P.93の練習問題に取り組む。	・時間が無い場合、練習問題は次回に取り組み振り返りのみを書く。	●評価 ☆つなげる

体の児童へ学びが深化していくことをさらに目指していく。

子どもたちが、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」に注目し、子どもたちが学んだ一つ一つの知識がつながり、「わかった」「おもしろい」と思える授業の研究を行ってきた。周りの人たちと共に考える場面を設定し、新しい発見や豊かな発想が生まれる「しかけ」として、発問やワークシートなどの研究が進んだ。

また、不登校児童が学校に登校しやすい環境作りにも取り組んだ。教室に入れにくい児童には、個別対応で指導を行い、学校の中に居場所作りができたこと、学習を継続的に進められたことなど、稲村ヶ崎小学校全体の、それぞれの場で「きく・はなす・つなげる」活動ができた。

(2) 児童の変容

研究を続けていく中で、児童の「最後まできく」「順序立てて話をする」という意識が定着してきた。そして、考えをつなげたり深めたりできたと感じているつぶやきや振り返りが見られるようになってきている。

3、実践の成果

(1) 学校の進むべき方向性

3校共通の大切にしたい「きく、考える、表現する」ことから、児童が主体となる「ききたい、考えたい、表現したい」と思えるような研究を行ってきた。6学年という幅のある成長過程のなかで、「きくこと・はなすこと・考えをつなげること」、それぞれの成長段階に合わせた授業へと改善が進んだ。

児童が、学ぶことに興味や関心を持ち、粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるような学びになったことを、一部の児童のつぶやきや、振り返りから読み取ることができた。一部の児童から全

4、今後の展開

本校の研究テーマは、昨年度までの研究テーマにつながりを持たせて、さらに児童の意欲・学力の向上を目指して取り組んでいる。今年度の研究を経て、教師が学びのつながりを意識したことで、児童にもそれが伝わり、学習がより継続的発展的なものになってきている。

今後も授業改善を継続し、子どもたち自身が自分の学びを意識し、より主体的な「きく・はなす・つたえる」が見られる授業となるように研究していきたい。